

## モンゴルにおける地震被害軽減のためのセミナー

防災科研は海外の国々の災害軽減にも協力しています。ここでは、モンゴル国の地震被害軽減にどのような取り組みが必要かを、モンゴルに行き、現地で議論しその方策を提案したモンゴル地震災害軽減セミナーについてご紹介します。

### ■モンゴルの地震災害と課題

モンゴルでは大断層を原因とする地震が数十年間隔で発生し、1957年にはM8.3の「ゴビ・アルタイ地震」が起きました。また、首都ウランバートルでは、人口集中が進み土地利用が高度化し、高層ビルが続々と建設されています。そして、今のモンゴルは「地震観測・研究レベルの向上」、「耐震基準の制定」、「人材育成」などの課題を抱えています。

そこで、当研究所と科学技術振興機構は World Seismic Safety Initiative(WSSI)、モンゴル国建設都市開発省、天文地球物理研究センターなどと協力し、ウランバートルで「地震災害軽減のためのセミナー」を2007年3月に開催しました。

### ■セミナーの成果を実現するために

このセミナーを議論だけに終わらせず、成果に実効性をもたせるために、様々なレベルの会議を重層的に組み合わせるとともに、開発途上国の地震被害軽減のために熱心に取り組んでいるWSSIの協力を得るなどの工夫をしました。

まず、建設都市開発大臣、ウランバートル市長、モンゴル科学院長などの政策決定に関わる約20名の方々と会議を行い、地震被害軽減策の必要性とその問題解決方法への理解を深めていただくことから始めました。

続いて、2日目にはモンゴル、日本、海外の研究者・技術者約100名が参加するセミナーを開催し、モンゴルの地震活動から地震危険度評価、耐震工法や危機管理手法など多岐にわたる発表や議論を行い、地震活動や減災への取り組みの現状を共有するとともに、課題を明らかにして

いきました。

セミナーを受け、3日目には専門家会議でテーマごとに今のモンゴルにはどのような地震被害軽減策が必要なのかを議論しました。実際に高層ビルの建設現場の視察もしました。



写真1 高層マンション建設現場で議論するセミナー参加者

この議論を通して、地震被害軽減には、「教育啓発、能力開発、耐震基準、財政ほか諸部門との協働に関して、短期・中期・長期の戦略を立てて地震災害軽減に取り組むことが重要」という合意が生まれるとともに、具体的な提言も作られました。この専門家の提言は、実現への期待を込めてモンゴル国建設開発大臣等に渡されました。

### ■セミナーの成果を発展させるために

モンゴルセミナーの議論は今秋のアジア科学技術フォーラム (<http://www.jst.go.jp/astf/>) におけるアジア地域の災害軽減の提言へとつながります。ここにはモンゴル国建設開発大臣にもご参加いただき、引き続き災害被害軽減についてご議論いただく予定です。

そして、セミナーが培ったモンゴル・日本の防災行政担当者や研究者間のネットワークは、今後も両国の災害軽減に貢献することが期待されています。その第一歩として地震災害関係の書籍をモンゴルに送ろうという計画が研究者の間で進んでいます。(企画部広報普及課 佐藤照子)